



定部金貳錢 廣(五) 休(日) 日曜大祭 印刷所 常磐新聞社

刊夕日十月十

眞に生きる也
富岡にて 山田緑雨生
僕昨夜來故土屋知美君の石城人物端を親讀いたし、今更乍ら全君を追慕するの情切に御座候。土屋君、金子木南君! 兩君共に流星一過の如く、地上の生活を果された事は誠に兩君のため悲しむ次第に御座候。短編、敏捷の土屋君……猛犬の如き金子木南君……僕は今更に兩君の思ひ出新らしく御座候。君よ人は年若くして、然も人に惜しまれ乍ら死する人は幸福者に候はずや? 土屋、金子の

兩君の印象は常に若々しい水々しい、潑潑たる意氣漲る印象に候はずや? 十三年の昔、神田青年會館に、故高山樗牛博士の追悼講演會催されし時、巖谷小波先生は「人は若くして惜しまれ乍ら死にたいものだ。今や静かに瞑目して、亡き博士の風采を憶ひ起せば、若々しい、水々しい、黒髪青年の面影を彷彿させる。亡友、高山君は永遠に若い而してその文獻的專業は永久に滅びない。永生の土高山君……」と追悼演説をされ申候。僕は小波先生の演説を感激して謹聴仕候。成程人は若くして死す可也と考へさせられ申候。しかし凡才僕の如

きは七十尙足らず、懸命に努力して天才者の千分の一の事業を果たし得るや否や懷疑至極に御座候「唯生きるにあらざるに生くる也」どのアリストートルの聖言は靈感の如く僕を動かしてやます候。過去半生世年空々寂々、何事も成就せずして生きたる事を心より口惜しく思ふものに御座候本日午後より一里の山道を突破して上岡に參り申すべく候。郷土平には悲劇的事件の發生を深觀し田園農村には疲弊と荒廢てふ悲劇の既生を諦視將に青年の奮起一番を要する秋に候はずや。僕も近々又も五回目的の斷酒して眞面目にて人生に直面せねばならぬ秋が刻々に近づきつゝあるを感得仕居候。

一冊の代金で
御希望通りな
五冊の雑誌が
自由に讀める
平町長橋町三五
川崎文庫
(申込次規則書進呈)

大々勉强的仕
少量ニテモ御用
命ノホト願ハス
迅速ニ配達致シマス
(コンクリート用)
砂利及砂
中山岩採掘販賣
此レニ附隨スル
土工請負業

常磐文藝
別れ
懐しの友はゆく遠き都へ
きよふ迄の語りも今は思出
残る我は淋し
静けき秋の夜共に眺めし月
今宵は一人名残を惜しむ
過ぎし日の思出は悲し
オ、なつかしの友よ
永久に我を忘るるな
寂しき我も友の幸多きを
祈るなり

世界唯一の名畫

空前の映畫藝術代表的名作
英國政府・佛國政府贊助・軍隊出動
絶後の映畫藝術
毒現心
卷三十全
來る十日より三日間日延なし
土曜日・日曜日・は晝夜
帝都説明界演 月岡秀粹 岡晃陽 帝キネ
一流者大競 藤原松雪 直營
有聲座
特別 小學生十錢 中學生十五錢
電話三二一

渡邊藥局
平町三丁目
渡邊政五郎
(郵便局向)

内科・外科・婦人科
デアルミー×光
花柳病科胃腸腸科
平町南町電話一〇七番

内科・外科・耳鼻
咽喉科・花柳病科
高久病院
平町南町電話五二三番

内科・外科・花柳病科
耳鼻咽喉科・婦人科
赤心堂病院
平町南町電話四七五番

眞に是れ鬼に金棒!
耐火耐震耐久力の絶大なる
日本コンクリート鐵網
拔群優秀なる斯界の權威
磐城セメントを推奨す
最も經濟的に然も超越せる無比の良材
(施工説明書を進呈致します)
特約代理店 平町五丁目
和洋鋼鐵
金物問屋
久釜屋商店
電話九番、一三九番

急告
電話讓受け度し
姓名在社

おいしいものは
誰方でもた好きです
早くマツモトヤの甘納豆を
召上り下さいませ
目丁四町平
ヤトモツマ
番四一二話電

平町南町 電話三二三番
丸登株式会社
川添房二郎

株式賣買中値
電話に金融致し

磐城銀行	五〇〇	五三〇
平銀行	五〇〇	六八〇
磐越銀行	一一五	一〇五
磐城實業	五〇〇	四二〇
磐城實新	三〇〇	二八〇
田村實銀	一一五	一一五
四倉銀行	一七五	一七五
農工銀行	二〇〇	二四五
同 新	一五〇	一八八
百七銀行	五〇〇	五五〇
同 新	一一五	一六〇
七七銀行	一一五	九八
郡山電氣	五〇〇	四〇〇
同 新	二五〇	一九〇
只見川電	一一五	七五
植田水電	一一五	一五五
好間水電	一一五	一三〇
磐城建物	一一五	一五〇
磐城製菓	二〇〇	二五〇
平信託	五〇〇	二五〇
磐城勸業	一一五	一三五
植田物産	三〇〇	二六〇
平製水	二五〇	一八〇
好間軌道	五〇〇	三〇〇
入山新	三二五	一七〇
小田炭礦	二五〇	一五〇
磐城炭礦	五〇〇	四一〇
同 新	二二五	一八〇
磐城セメント	五〇〇	六二五
同 新	三三〇	四二〇
平運送	一一五	八〇

大瀧發電所問題に

関連した副産物

わび証文事件公判

在平各辯護士千羅星の如く
各被告は暴行や強迫を否認

傍聴人固づを飲む

元東京日日通信員石井虎雄が大瀧發電所問題に關し平町側に對する不利益なる筆を構へ殊に許可反對同盟會の運動を傷けんとして嘘萬八の報導を爲したる爲め是れに對し好意的な勸告を試みんと同會員花澤久一郎、鈴木長三郎、多田井笑次郎、馬目武之助、佐藤長造の諸氏が石井通信員を訪ね証文を徴した事件は既記の如く本日午前九時四十五分から福島地方裁判所平支部に於て開廷された

開廷前から傍聴人多く形勢物々し

平未曾有の大問題である大瀧發電所問題の副産物である處から傍聴人は既に定刻前より延内に押し掛け平署からも萬二の混雑を慮つて取締の警官を特派する等形勢極めて物々しく先づ五人の各被告は花澤、鈴木、多田井、馬目、佐藤の順序にて着席し開廷を待つ間程な

花澤氏陳述

私共は暴行を毛頭も働かぬ

小田炭礦株式會社に對して第一發電所の許可があり其後同炭礦の代理人と稱する平電氣企業社が工事の一部變更を致しまして大瀧發電所の許可を受け受ましたが是れは平町水道に對して非常な影響があり衛生上にも水量にも大いに

害毒を

蒙る爲めに

平町百年の大計を立てる上に憂慮すべき次第なので是非共其許可を取消さねばならぬと云ふ決心で許可反對同盟會を組織し縣當局にも陳情し其の他の運動を致しましたが夫等の資金は各方

面の寄附に依つて満了した、六月廿六日に福島民友記者を訪問した理由は當日午後三時水道部の樓上に

平支部

に石井東日

記者を訪問した理由は當日午後三時水道部の樓上に永山町會議員が町長と共に上京し行政訴訟を提起した結果に關して報告があるとの事に私も其處に参りまして處々誰かが今日の東京日日新聞に掲載された記事は我々同盟會委員を傷けるものであるから是れから石井記者を

訪問し

て忠告し今

後は誤つた報導を爲さぬ様に諒解を受けて來ようではないかと申しますので私も夫等の人々と共に先づ古鍛治町の石井記者の宅に参りまして處が不任で多分民友支局に行つて居る筈であるとの事午後六時過ぎ頃其處に訪ねました

新田町

の野崎滿藏

へ行つて居るが電話で呼びますからお待ちなさいと女中が申しましたので縁側の處へ腰を掛けて待つ居ましたと約二十分頃石井記者が参りましたので最初佐藤長造さんが來意を告げ餘り誤解をなさず平町側に有利な筆を執つて貰ひ度いと種々石井記者と

意見を

交換した結

果同人は自分の誤りで書いたのであるから濟まなかつたと云ひました、茲で一才東日の記事が事實相違であつた點を申上げますが夫れは六月廿四日の記事であり

ました、私共が小田炭礦社長を訪問し同社長と許可取消の件に關して

懇談を

遂げ互に談

笑裡に時を過ごして歸平しましたのに新聞の記事には二百名の坑夫が押し掛けるからとの事に委員等は驚いて逃げ返つたと全く嘘萬八を誇大に掲げたのです、夫れから一つは廿六日の記事に各大臣に提出する陳情書の調印を無理に取つたとは是れも其の様な

事實が

ないに拘ら

ず載せました。此點に就いて石井記者に追求しましたので同人はまた是れにも濟まなかつたと申しました、其時は既に電燈もつきまして活動常設の平館へ行く爲めに通りかゝつた人々等も大部支局の前に立止まつた模様で

模様で

外部の方か

ら証文を取れと叫ぶ者もあり二度程宅の中の電燈が消され中には殴れと云つた者もあつた様で甚だ形勢が急迫を告げました、爲め私共は警官の立會を要すと信じ平署に電話を掛けました其内に丸昌さんも外から來まして是れは

謝罪書

を書いた方

が穏やかに濟むんぢやないかと申しました結果石井も其氣になり謝罪書を書いたのです、出來上りました謝罪書を佐藤長造さんが戸外の群衆に向つて夫れを讀み上げましたが讀む事は石井の承諾を受けてからの事

すとして夫れを鈴木長三郎さんが預る事となりました私共は

其場合

石井を毆つ

た等の事實は全くありませぬ、然るに石井から私共が事實に反した事を告訴されました事は心外で耐りませぬ、醫油樽や物干竿は戸外からの事でありまして誰れがどう云ふ工合にしたかは私として解りませぬ、しかし夫れが爲め石井の身邊に危害を加へる様な事は

毛頭な

く私共とし

ては警官も立會つて居た事ですから何處迄も紳士的態度を失へませんでした、それ處ではなく私共としては寧ろ石井の身を擁護して居たのです

各被告も

同様の申立

正午に休憩
夫れから引續き鈴木、多田井、馬目、佐藤の各被告が夫々白井裁判長の前に花澤氏と殆ど同様の申立を爲し永井、眞木兩辯護士から當日石井通信員を訪問したる時間其他に就き訊問申請あり正午晝食の爲め一先づ休憩した

檢事の論告

懲役を求刑

明紙に詳報
別項永野辯護士の申請却下された後引續き新田目、千葉兩辯護士から被告に對する有利なる證據品の提出あり直ちに梅村檢事の論告に移り各被告に懲役二ヶ月を求刑した(午後一時半)

永野辯護士が

現場の檢証を申請

梅村檢事も同意したが

その要なしと決定した

午後一時再開、劈頭永野辯護士は證據申請として福島民友支局及び憲政俱樂部の實地檢証を望み且つ證人として井上貞次郎、永山義太郎三井富吉の三氏を申請した右の理由を述べて曰く「民友支局と憲政俱樂部とは三四間の距離なるに拘らず現に俱樂部に居た者が各被告に不利益なる證言を爲しつつあるは不可思議千萬にて斯くの如く離隔せる場

腸の障害

小兒に附き
夜中など
に目を覺ますと必ず子供は夜具を跳ねのけて腹部を出し

氣温が

非常に下る

のが今頃の時候である従つて小兒の障害が非常に多くなる所謂寒冷へとらふのが是である今頃に限らず氣候の變り目はいつとも病氣が出て醫者は急に多忙になるが

讀者割券

十日及び十一日の晴天二日平町にて
大角力
常盤毎日新聞社

讀者割券

十日及び十一日の晴天二日平町にて
大角力
常盤毎日新聞社

明けの

日は必ず腸

を傷めて下痢を起すのである此の腸の弱くなつてゐる時チブス菌でも飛び込んだが最後直に感染する小兒の腸傷害が其儘治つてしまへばよいが是が原因となつて

疫痢を

引起す

のである、小兒の病氣で最も恐るべきは疫痢である何故恐るべきか云ふ疫痢は醫者が間に合はぬ中に死んで仕舞ふ程強烈迅速な病氣であるだから親達は余程注意せねばならぬ